

第3章 有識者による評価コメント

西川潤名誉教授からの評価コメント

評価者：西川潤名誉教授（早稲田大学名誉教授）

方法：面談方式（参加者：内海グローバル協力センター長）

内海グローバル協力センター長より、事業計画、活動内容について説明。西川名誉教授から得られた本事業に対する評価コメントは以下の通り。

・理論と実践両面での成果

大学機関が専門的に関わり教育に関する理論的な面から研究、調査に貢献する一方、アフガニスタンへの支援においては教員の指導書を作成したり、日本の教育システムに関する研修を通じてアフガニスタン等の教育現場での行動変容につなげており（学校をきれいにしたり、生徒と教師の関係を重視するやり方に変える等）、理論、実践両面での成果が上がっている。

・女子大の強みを活かした連携の達成

女子大学における教育の強みを活かしながら、日本の女子大学が連携して複合的な強みを持たせつつ、途上国でのニーズの高まっている女子教育にかかわる研究、調査、女性教員への研修を実施している点に独自性や意義が高く、評価できる。

・平和構築への貢献

平和構築において国際的な繋がりが新たな紛争の抑止力となるという意味で、5年間あたり100名に及ぶ教員研修を通じてアフガニスタンと日本の関係を強化していることが平和構築に貢献している。

・日本の大学教育へのインパクト

本事業にかかわる活動、イベントに学生が参加することによって、学生たちが国際的な問題に関心を持つ足がかりになっており、日本の大学における教育的な教育上の成果も高いと考えられる。

・広報の必要性

このような意義ある活動について、ほとんど知られていないため、広く知らせていく活動も必要である。評価を系統的に行うことで活動への指針を広く集めた上で、広報に活用していくことも考えられる。